

神奈川山梨教会連合会たより

かりん

「父親の病を機縁として」

横山敏孝先生は、昭和五十七年二月十六日生まれ。丸子教会二代教会長横山光雄師、明子師の長男としてお生まれになりました。二歳下の妹と二人兄妹。高校卒業後、金光教学院に入学されました。翌年卒業され、平成十四年金光教師を拝命されました。

平成二十三年に結婚され、二児の父とされます。現在は、副業で防水工事の仕事をしながら御用に励まれています。

○高校卒業してから、すぐ学院に入学されたとのことですが、どういう心境だったのでしょうか。

敏孝（以後…敏）…その頃は正直言うと、高校卒業してすぐに仕事はしたくないな、と思っていました。逃げのような気持ちがあり、学院に行こうかな、と少し軽い気持ちがありました。しかしその頃、教会長である父が心筋梗塞で倒れることがあり、学院に行く決心をしました。

○そうでしたか、しかし学院生活は、楽しい学生生活と違って、大変だったのではないですか？

敏…いや、そう大変だとは思わなかったですね。入学して最初の一週間ほどは少し大変だな、と思っていました。すぐに慣れましたし、楽しいこともありました。学院生活は数人ずつ班に分かれて御用などするので、自分の班がともよい班で、そのおかげもあつたと思います。

また、本部で「教師子弟の集い」という集いが年

川でスベって山でコロんで…とってきました

Interview

第48回 丸子教会 横山敏孝先生



に一度ほどあり、そこで仲良くなった同級生も何人か入学していたので、より楽しく学院生活を送れたのだと思います。

○それはよかったですね。修行は辛くても、気の合う仲間がいれば、それもまた楽しく過ごせるのでしょうか。学院を卒業してからはどうですか。

敏…卒業してすぐは「御用をがんばろう、色々取り組んでみよう」と思っていました

が、帰ってしばらく経つと、そんな気持ちもすっかり消えましたね。

○現実が見えちゃったのですかね。

敏…洗脳、といえれば聞こえが悪いですが、教会に戻ってきたら、日常の生活がまた始まるわけです。

○卒業した翌年に仕事を始められていますね。

敏…そうですね。家族をかかえる今、子どもにもお金がかかるようになってきて、やるわけにはいかない現状です。

○今はお坊さんも副業して、お寺の維持に収入を充てていると聞いたりします。金光教も正直厳しいですよ。うちもそうなので。

敏…そうですね。

○当面の目標などありますか。

敏…目標ですか…今は目の前の事をこなすのでいっぱいいっぱいいな感じですが、来年五月三日が布教七十年記念祭なので、それまで家族みな元気で過ごし、健康で記念祭の御用に取り組み、執り行わせていただきたいと思っています。

○ありがとうございました。（今村則子）



去る9月2日13時半、鎌倉教会を会場に輔教懇談会が開かれました。鎌倉教会のお二人の輔教が発題され、古賀さやかさんには『輔教拝命のきっかけ』、伊藤かおるさんには『輔教になって感じる事』というテーマでした。

古賀さんは、「子供のころから慣れ親しんだ先生が高齢になられ、御用の大変さを見るにつけ、何かお手伝い出来る事があつたらと感じていた。金光教師をしている従兄弟たちに輔教について尋ねたら、「教会にとって大切な役目」と聞かされ、少しでもお役に立ちたいと輔教の願いを立てた」そうです。

また、伊藤さんは、「先生が高齢になり、入院されたあと、兼務教会長として来て下さった原田先生のご指導を仰ぎながら、輔教として出来ることは何かと考えている。楽しく居心地のいい家庭的な教会、帰る時にお参りしてよかったです。考える教会、心が落ち着く教会を目指して、古賀さんや他の信者さんたちと協力し合っている。先生が入院されて2年少々、いろいろなことがあつたが、神様が守って下さっていることを感じる」と話されました。

休憩後、出席者に自由に語って頂きました。主な発言を紹介します。「輔教になる時は、特に自覚がなく、金光教のことを勉強したいと思って、講習を受けた。が、やは

輔教懇談会が開かれました

大塚東子

り自覚を持って御用に当りたい。懇談会に参加して、刺激を受け、参考になっている」「信徒に区別をつけるのかという思いがあつて、最初はなりたくないと思つていたが、輔教は教団の構成員なので、教会だけでなくもつと広い御用ができると思ひ、なるほどと思つている」「コンピューターで信徒の名簿を整理して、管理している。教会行事や祭典の案内状を出すなどしている」「今は、ご神前のお掃除をしている」「月例祭のあとに、共励会をしているのだが、その内容を検討し、司会を務めるのが輔教の役目。今は4人の輔教で協力し、実り多い共励会にしたいと努力している」「輔教としての悩みや喜びを話すだけでも十分意味があるが、他教会の様子や御用の在り方を知って参考になる」などなど。笑い声が絶えない和やかな集会でした。

最後に山田連合会長から「輔教の御用はいろいろあるが、まずは特技を生かすこと、社会人として得たことを活用できればすばらしい。先生でなくても出来ることを輔教の方が担つて下されば、教会の働きが一層大きく広がっていくことでしょう。みなさんのお働きを期待しています」と感話を頂き、16時半散会しました。出席者は13名でした。

○かりんの輪

「祈られて神様からさせていたただいた就職活動」

鎌倉教会 古賀さやか

私は、平成28年3月に横浜市社会福祉協議会を60歳で定年退職しました。その後すぐに再就職せず、在職中は年に数回しか参拝していなかった鎌倉教会へ再び参拝するようになりました。

教徒である両親が佐賀県から昭和23年に鎌倉へ転居し、亡くなるまで参拝させていた教会です。兄弟と同じく私も物心つく前から、母に連れられて参拝していました。再び教会へ参拝させていただいた事が、私の信仰にとって大きな転機となり、教会の御用を手伝わせていただくようになりましたが、無職なのでわずかな年金以外の収入はありませんでした。

そこで、教会の御用が一段落し、年が明けた平成29年から本格的に就職活動(就活)を始めました。ハローワークに通い、60歳以上でも働ける公的な職業をいくつか紹介していただきました。鎌倉教会でお届けをさせていただきましたから履歴書を送付いたしました。60歳を超えた年齢では、面接どころか書類がそのまま返送される日々でした。運よく面接を受けることができて採用には至らず、60歳の壁は高く厚く、とう

講話と夕食の会が開かれました

12月1日(土)午後3時、神奈川教会3階ホールで、信徒部主催の「講話と夕食の会」が開催された。連合会の皆さんの間では12月の第一土曜日は講話の日と認識されていて、楽しみにして下さっているとか。今年は大崎教会長・田中元雄先生の「世界の平和、心の平和」を拝聴した。

田中先生は、金光教の教師になられた後、キリスト教の中ではリベラル派として知られるユニテリアン教団の招きで、アメリカに留学、帰国後も交際を深めておられるので、他宗の方々に知己が多い。「宗教者たる者、現地を見るべきだ」と勧められ、湾岸戦争のすぐ後に、「湾岸戦争を考える会」のメンバーとして中東を訪問され、またカンボジアにも現地訪問されている。ベイルートでは銃を向けられたまま尋問を受けたり、危険な目にも逢うが、戦争の悲惨さを目の当りにし、また現地に行ってみないとわからないこと、体験しないとわからないことを、たくさん見聞される。



講師の田中元雄先生

気という。あるイスラエル人が言ったこと。「私はイスラエル人だが、ユダヤ人ではない。アラブ人だが、イスラムではない。クリスチャンだけれども、多数派ではない。だから、戦争になったら困るのだ。多様性を認めてもらわなければ、私には生きる場所がない」。人間は歴史、文化、言語、住む場所など、さまざまな要因で元々違うもの、多様性を認め合って尊重し合うことが大切である、と。

「家内に不和のなきが元なり」という教えがあるが、身近にいる人と愛し合い、支え合って良い関係を作ること、これを広げ繋げていけば、世界の平和に繋がるはず。「心は広う持つておれ、世界は広う考えおれ、世界はわが心にあるぞ」という教えもあるが、ユネスコ憲章の「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」という言葉と、そのまま繋がると話された。

最後に天地書附について、先生の解釈とお考えをお聴きしたが、私の頭と筆では、(4ページ中段へ)

とう春には、自分から就職活動を諦めてしまいました。家計のやりくりはますます大変になってきました。

その後、11月に九州の親戚教会記念祭への参拝がきっかけとなり、就活を再開させていたいただきました。今度は就職させていたくまで頑張ろうと思えました。教会では、教会長の原田先生を始め信徒の方々が、就職成就を祈ってくださいました。再びハローワークへ通い始め60歳の壁に挑むも、採用にいたりません。

その頃、信徒の方が鎌倉市の広報に非常勤職員募集が出ているとお知らせ下さり、12月と今年1月に、2職種で履歴書を市役所へ持参させていただきました。その都度お届けさせていただきながら、試験に臨みました。

2職種のうち1職種は面接後採用にはいたりませんでした。もう1職種は、2次のパソコン実技試験、3次の面接試験を受けさせていただき、3月に採用通知が届きました。そして4月から、鎌倉市役所で月12日勤めさせていただいております。

神様のお計らいと先生や信徒の皆様のお祈りにより、就活は紆余曲折いたしました。が、時節を得て生まれ育った鎌倉で、就職させていただくことができました。とてもありがたい、お礼と今までの不行き届きのお詫びを申さずにはおられません。

教師会の様子

8月16日午後1時30分から4時頃まで、横須賀教会を会場に本年度第3回の教師会が開催されました。

13教会（小田原・神奈川・横須賀・藤沢・鎌倉・鶴見・平塚・登戸・横浜西・子安・丸子・相模原・大明）から15名が出席し、左記の要領により進められました。

①各部活動報告

②研修 発表・宮川昌也先生（小田原教会）

木本先生による開会のご祈念に続いて、連合会長の山田先生が挨拶され、連合会各部活動および首都圏フォーラム等各種団体についての報告と意見交換が行われました。

研修として、宮川昌也先生より金光教の現状と取次者育成の必要性についてお話しいただきました。その後、その発表をもとに、参加された各先生方から、教会や教団のあり方など多方面にわたって意見が出され、活発な議論を行いました。

研修会の後、横須賀教会のご好意で軽食をいただき共に歓談させていただきました。次回は本年最後の教師会として12月18日、子安教会での開催を予定しています。

（3ページ中段より）

うまくお伝え出来ず、これについては割愛させて頂きます。経験に裏打ちされた豊富な知識を基に、例話をたくさん聴かせて頂き、楽しく充実した時間であった。14教会から41名参加した。（大塚東子）

【お知らせ】

☆訃報

奥川昌子先生（平塚教会前教会長夫人）は、平成30年12月2日16時13分、ご帰幽になられました。92歳9ヶ月でした。

謹んで、ここからの御霊神様の立ち行きをお祈り申し上げます。

☆かりん67号インタビュー訂正

前号の記載事項に誤りが見つかりましたので、以下の通りお知らせ申し上げます。

▼1ページ本文4行目

「お祖父様が」が「曾祖父様が」の誤りでした。

この紙面をお借りし、訂正してお詫び申し上げます。

（広報室）

「源三郎先生・みち先生に感謝」

横浜西教会 鈴木光政

私の金光教の信心は、祖母から父と続く三代目です。祖母の深い信仰を父が引き継ぎ、父と一緒に神奈川教会に日参を始めたのが大学受験を失敗して浪人中の時代でした。

当時は、福田源三郎先生、みち先生が教会を守っておられました。源三郎先生の毎朝の有り難い教話を頂くのが一日の始まりでした。ご夫妻には、私の父母の様に深い愛情をかけて頂き、親身に人生の相談に乗って頂きました。受験に失敗し無念に涙した時、みち先生は、「神様は決して悪いようにはしない、あなたの道は神様に良いように導いて頂けるから、神様におすがりしましょう」とおっしゃってくださいました。

その後、明治屋に入社。源三郎先生には保証人にまでなってもらいました。仕事でもおかげを頂き、順調に出世も出来ました。また多くの部下にも恵まれました。これも、みち先生の「神様は決して悪いようにはしない」、そして源三郎先生に保証人になって頂くなど、大変なお世話を頂いた賜です。心より感謝致しております。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 山田 信 二

〒245-0017 横浜市泉区下飯田町926・23
金光教横浜西教会内